

## 会 議 録

会議の名称	平成 29 年 第 3 回 本庄市国民健康保険運営協議会	
開催日時	平成 29 年 8 月 17 日 (木)	午後 1 時 30 分から 午後 2 時 35 分まで
開催場所	本庄市役所大会議室	
出席者	被保険者代表	金井 泰明、澁澤 勲、新井 千奈美、浅見 敏江
	保険医又は保険薬剤師代表	倉林 京児、石原 博史
	公益代表	柿沼 光男、岩崎 信裕、木村 保、内野 勲 佐々木 義弘
	被用者保険等 保険者代表	佐々木 淳一、石原 雅樹、杉山 和男
	事務局	春山 康壽 (保健部長)、中田 啓一 (保健部次長兼保険課長)、駒澤 明 (収納課長)、榊田 恵 (保険課課長補佐兼国保係長)
欠席者	木村 文夫 (被保険者代表)、渋谷 修身、堀川 明、林 勇毅 (保険医又は保険薬剤師代表)、	
議 題 (次 第)	1 開会 2 あいさつ 3 議題 第 1 号議案 国保広域化に向けた保険税改定等今後の方針について 報告事項 1 平成 29 年度国民健康保険特別会計 9 月補正予算について 報告事項 2 平成 28 年度国民健康保険特別会計決算(案)について 4 その他 5 閉会	
配布資料	・第 1 号議案資料 1・2 ・報告事項資料 1・2	
その他特記事項		
主 管 課	保健部保険課	

会 議 の 経 過	
発言者	発言内容・決定事項等
司会	1. 開会
会長	2. あいさつ 【会長あいさつ】
司会	【本協議会成立の報告】
保険課長	3. 議題 【第1号議案 国保広域化に向けた保険税改定等今後の方針について資料1・2に基づき説明】
議長	第1号議案につきまして、事務局から今後の動向等の説明がありました。委員の皆様からご質疑、ご意見等ありましたらお願いいたします。
委員	資料1の最後の部分ですが、本庄市から埼玉県へ支払うべきお金が、5700万円くらい足りないという考え方でよろしいのでしょうか。
保険課長	資料1の歳出表にあるとおり、埼玉県へ支払う納付金のほかに、総務費、出産育児一時金、葬祭費、保健事業費、過年度保険税還付金等の費用がかかります。それらを支払うための財源が約5700万円足りないという見込みです。
委員	資料1の3収支状況の説明で、総務費の取扱いを庁内で検討・調整中とのことですが、これは市の判断で対応可能ということでしょうか。
保険課長	これまでは職員給与費のみを法定繰入金として扱っていましたが、他市の動向や広域化等も踏まえ、総務費全体を法定繰入金とすることを財政課と調整中です。これは市の判断になります。 補足いたします。この法定繰入金につきましては、総務省通知により、一般会計から国保特別会計へ繰入できる経費について一覧が出されています。この一覧を確認したところ、総務費全体を繰り入れることが可能ではないかということで、調整しているところです。この調整がまとまれば、赤字額から総務費分を減額することができるということになります。
委員	資料1の5で赤字額が減るという説明がありましたが、この減った約1億円はどこに行くのですか。
保険課長	これにつきましては、実質的に赤字ということに変わりありません。保険税を改定して解消すべき赤字の中に、保健事業費と保険税過年度還付金は含めなくても良いと国が示していますので、この分の赤字解消のためにはこれまでどおり、一般会計から法定外繰入を行うこととなります。ただし、この法定外繰入については、赤字解消のための国の指導対象にはなりません。

<p>保険課長</p>	<p>この保健事業費については、事業をやればやるほど費用がかかってしまいます。保険税を上げないために保健事業を全くやらなくていいかというところではなく、保健事業の目的は医療費の増加を抑制するためですので、保健事業の実施を積極的に支援している状況です。そのため、保健事業の費用については赤字に含めなくても良いと考えていると解釈しています。</p>
<p>委員</p>	<p>確認ですが、一般財源からの繰入は今後も継続されるということになるのですか。</p>
<p>保険課長</p>	<p>法定繰入分については、広域化後も当然残る形です。それ以外で万一赤字になった場合には、一般会計から繰入をすることになると考えています。</p>
<p>委員</p>	<p>協会けんぽは県内の中小企業の皆様が加入している健康保険です。当然本庄市にも加入者の方がたくさんいらっしゃいます。その加入者の皆様の立場からすると、協会けんぽに納めた保険料の中から前期高齢者納付金を納め、自治体の国保財政へ還元していることとなります。尚且つ、その他に通常の税金を納めている中から国保財政に繰入を行うということは、言ってみれば保険料を二重に負担しているような構造になっています。これは、本庄市だけではないと思いますが、できるだけこのような構造上の不整合は解消する取組をご検討いただくようお願いいたします。</p>
<p>保険課長</p>	<p>国民健康保険では、被保険者の健康寿命の延伸を図ることにより医療費を抑制するために様々な取組を行っているところです。特定健診やがん検診の受診率を上げ、病気の早期発見・早期治療を行い医療費の圧縮を目指しています。将来的な医療費抑制のために、生活習慣病の重症化予防事業なども始まっています。本庄市では、一時期、県内でも医療費がかなり高かったのですが、現在は平均並みに下がりつつあります。今後も病気の早期発見、重症化の予防、病気を防ぐための健康づくりなどに力をいれていきたいと考えています。</p> <p>現在、本庄市では健康づくりチャレンジポイント事業を実施していますが、被保険者の皆様に健康づくりをしていただけるインセンティブ事業を積極的に展開することで、医療費の抑制を図っていききたいと思います。医療費の抑制を図ることで、平成 30 年度以降の国保事業費納付金の圧縮にもつながると考えています。</p>
<p>委員</p>	<p>資料 1 の 3 ページで、「本庄市は平成 27 年度に C 型肝炎の新薬の影響で大きく保険給付費が上昇し」とありますが、C 型肝炎の新薬は非常に高価なものだと思いますが、その薬を使う C 型肝炎の患者が本庄市ではそれほど多いのですか。</p>

保険課長	<p>原因は不明ですが、本庄市では元々C型肝炎の治療を行っている方が近隣に比べて多い傾向にありました。平成27年度はこの新薬で治療を行ったことで、前年度より数倍の医療費がかかりました。そのため、平成27年度の決算では5億円を超える赤字となりました。</p> <p>ただし、平成28年度になると、この画期的な新薬によりこれまで治らなかったC型肝炎が治ってしまうため、影響が薄れて医療費が落ちてきたという状況です。</p>
議長	<p>それでは、この協議会の今後の審議にも影響があると思いますので、今後の方針等について、事務局から説明をお願いします。</p>
保険課長	<p>現在、埼玉県で納付金の第3回シミュレーションを行っているところです。第3回のシミュレーションでは、納付金額も標準税率もおそらく大きく変わってくると予想されます。その結果が9月頃に出てくると思いますので、それを踏まえて、保険税等のあり方を協議させていただきたいと考えていますのでよろしくお願いいたします。</p>
議長	<p>本日、ある程度の方向性を決めることができるかと思っておりましたが、事務局からの説明のとおり、第3回シミュレーションの結果が9月に出て、内容も大きく変わる可能性があるということで、次回の協議会で方向性を決めていくということになりました。</p> <p><b>【第1号議案終了】</b></p>
保険課長	<p><b>【報告事項1 平成29年度国民健康保険特別会計9月補正について資料に基づき説明】</b></p>
議長	<p><b>【質疑なし】</b></p> <p>それでは、報告事項1の補正予算につきましては、この内容で補正させていただきますのでよろしくお願いいたします。</p>
保険課長	<p><b>【報告事項2 平成28年度国民健康保険特別会計決算(案)について資料に基づき説明】</b></p>
議長	<p>収納課長から、決算について何かありましたらお願いします。</p>
収納課長	<p>平成28年度国民健康保険税の収納率を報告させていただきます。現年度分は92.60%、前年度比1.07ポイントの増、滞納繰越分は、22.71%、前年度比0.24ポイントの減でした。現年度分と滞納繰越分の合計の収納率は、77.90%で前年度比0.99ポイントの増となりました。</p> <p>次に、平成29年度の現年度課税につきましては、市民税、固定資産税、軽自動車税は軒並み前年度より調定額が増加していますが、国民健康保険税は約3950万円の調定減となっています。また、7月末現在の現年度収納率は、11.87%で前年度同月比で0.17ポイント増となっています。今後も国民健康保険税の収納率アップに努めて参りますのでご理解をいただきたいと思います。</p>

議長	保健部長から決算について総括的に何かありましたら説明をお願いします。
保健部長	<p>特に報告ではありませんが、今回法定外繰入が0円になった要因について説明いたします。平成27年度と平成28年度の決算で大きく変わったところをいくつかピックアップいたしますと、歳入では国民健康保険税の収入について被保険者の減少に合わせて減ってきています。その中で、国庫支出金は1億2千万円くらい増えています。これについては、実はもらいすぎてしまっているもので、先ほど説明させていただいた平成29年度の補正予算で返すということになっています。療養給付費交付金や前期高齢者交付金も減額になってはいますが、保険給付費の減少に比べると減り方が少ないといえます。共同事業交付金は保険給付費が減ってはいても、1億8600万円ほど増えています。これが歳入の一番大きい増収になります。結果として、平成27年度に比べ平成28年度の歳入は1億5400万円ほど増収となっています。</p> <p>歳出では、保険給付費が一番大きな歳出になりますが、これが2億1800万円ほど減少しています。先ほど保険課長がご説明したC型肝炎の影響が薄れたということです。平成27年度はC型肝炎の治療にかかった医療費が大変多く、急に2億から3億円増える状況でした。通常であれば、被保険者が減っているのに医療費も減るはずなのですが、平成27年度はC型肝炎の治療のために突発的に増えたという状況です。それが平成28年度に入り影響がなくなってきて医療費が減少したため、2億1800万円ほど保険給付費が減少しています。その他、後期高齢者支援金は約6200万円減少、介護納付金も約3600万円減少、共同事業拠出金は1600万円ほど増えています。返還金が少なかったため、諸支出金と保健事業では1億1400万円ほど減少しています。結果として、歳出は4億2700万円ほどの支出減となりました。</p> <p>平成27年度は約5億円の法定外繰入をしましたが、平成28年度はこれに相当する分が、歳入と歳出で相殺されてしまったために、予算上見込んでいた5億円ほどの法定外繰入をせずに済みました。ただし、平成28年度に繰り越された約1億1600万円は、全額返還金に充てることとなります。全額充ててもまだ2千万円ほど足りないため、その分を一般会計から繰入れさせていただくこととなります。実質的には、平成28年度の決算は赤字だということです。国から余分にもらった分が入っているため黒字に見えていますが、実際には後から返還することになるため、まだ赤字です。ただ、収支的には非常に良い収支になってきていると考えています。保険課長の説明で、国の方でも平成30年度に向けて激変緩和措置を色々と計画しているとのことですので、もしかすると納付金の額がもう少し減少するかもしれないということで、保険税の見直</p>

	<p>しがどこまで必要になるかという検討が必要になります。それも、第3回シミュレーションの結果次第なのですが、あまり影響を出さずに済むのではないかと考えています。今回の決算では保険税を大きく上げるということはなかなか考えにくいのですが、納付金の額がどうなるかによって変わってきますので、9月にシミュレーションの結果を見た後に、協議会でご説明をして、方向性を決定できればと思っています。</p>
副会長	<p>C型肝炎の治療で医療費が増えて、それが落ち着いてきたということですが、ニュース等で新薬の薬価を引き下げることを見たのですが、そうした効果は入ってないのですか。</p>
保険課長	<p>平成27年度にC型肝炎の新薬が発売されて、全国的に薬剤の医療費が急増しました。それに伴い厚生労働省ではC型肝炎の薬価を約30%引き下げました。その効果ももちろんあったわけですが、平成28年度は新薬治療を行う患者数がだいぶ落ち着いた状況にあります。その結果、平成28年度の保険給付費が2億円以上下がった形です。</p>
保健部長	<p>付け加えさせていただきます。このC型肝炎の影響は、保険課内でも特に注視して調査を行っていました。推測ですが、それまでC型肝炎の治療を受けていた患者さんが、平成27年度に一斉に治癒率の高い新薬を使い始めたために、保険給付費が急激に伸びたと考えられます。この新薬によって90%以上の方がほぼ治ってしまうので治療を行う人が減って来て、そしてC型肝炎は新たに感染する人が少ないために、増えることがなく現在は落ち着いていると思われまます。潜在的にウイルスを持っていて、今後治療が必要となる人もいると思われまますが、それまで治療をしていた患者さんについては、平成27年度後半にかけてほとんど治療を受けられたと推測できます。治療継続中の患者さんはまだいらっしやると思ひますが、今後、急激な伸びはないと考えられます。</p> <p>実は、まだC型肝炎の影響が落ちないかもしれないということで、平成28年度の補正予算では保険給付費を多めに見積もっていました。しかし、結果として必要がなかったために執行残額がかなりあります。そのために、法定外繰入を約5億円見込んでいたものが繰入れなくて済んだということになりました。ですので、今のところC型肝炎の影響は落ち着いている状況です。</p>
議長	<p>それでは、報告事項2の決算(案)につきましては、この内容で議会へ諮らせていただきますのでご承知おきいただきたいと思います。</p>
保険課長	<p>【議事終了】 4. その他 【次回運営協議会の日程を提案】</p>
副会長	<p>5. 閉会 【閉会あいさつ】</p>

平成 29 年 9 月 13 日

会議録署名 会長

柿沼光男